

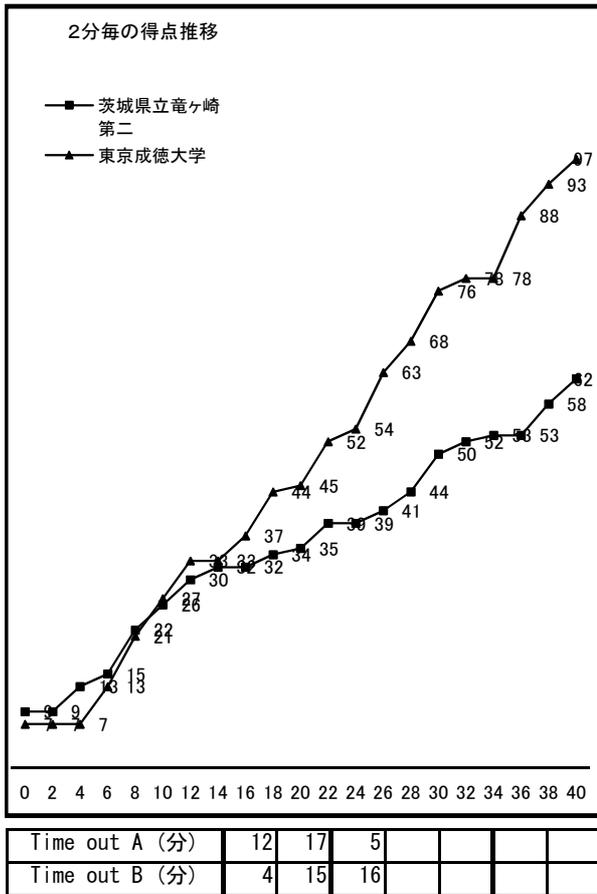
平成28年度 第70回 関東高等学校女子バスケットボール大会

Aブロック1回戦 平成28年6月4日(土) 高崎市浜川体育館 大会1日目 Aコート 第4試合13:30~																					
〈Aチーム〉 茨城県立竜ヶ崎第二 (茨城)	62 <table border="0" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>{</td><td>26</td><td>-</td><td>27</td></tr> <tr><td></td><td>9</td><td>-</td><td>18</td></tr> <tr><td></td><td>15</td><td>-</td><td>31</td></tr> <tr><td></td><td>12</td><td>-</td><td>21</td></tr> <tr><td></td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </table> 97	{	26	-	27		9	-	18		15	-	31		12	-	21		-	-	-
{	26	-	27																		
	9	-	18																		
	15	-	31																		
	12	-	21																		
	-	-	-																		
主審 大澤 尚樹	副審 武田理輝																				
〈Bチーム〉 東京成徳大学 (東京)																					

S	NO	氏名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	足立 華	2		1		
◎	5	駒組 花菜	15		5	5	3
○	6	足立 真帆	2			2	
○	7	近野 綾郁					
◎	8	本間 胡桃	10		5		1
○	9	長谷川 未佳	6		3		4
○	10	齊藤 未織	8		2	4	3
◎	11	板垣 哉也子	4		2		3
○	12	関根 楓	2		1		
○	13	横堀 早佑理					
◎	14	小泉 雛	6	1	1	1	2
◎	15	伊藤 みらの					5
○	16	山口 桃佳					
○	17	栗山 亜美					
○	18	市川 水晶	7	1		4	2
コーチ		宮田 宗典					
			62	2	20	16	23

S	NO	氏名	得点	3P	2P	FT	Foul
◎	4	小沼 康乃	7	1	2		4
○	5	坂牧 祐里	9		4	1	1
○	6	神崎 璃生	4		1	2	2
◎	7	菅野 恵	10		4	2	2
◎	8	濱西 七海	12	1	4	1	1
◎	9	植松 莉佳	20		8	4	1
◎	10	清水 智央	12		5	2	2
○	11	佐藤 理映	2		1		2
○	12	小笠原 彩香	5		2	1	2
○	13	平山 瞳海					2
○	14	五老 アミナ	2		1		1
○	15	木村 亜美	9	1	3		2
	16	佐藤 希	2		1		
	17	奥野 楓	3	1			
○	18	関根 志穂					1
コーチ		遠香 周平					
			97	4	36	13	23

◎:スターター ○出場 3P:3点シュート(本数) 2P:2点シュート(本数) FT:フリースロー(本数) Foul:パーソナルファウル



戦評 記入者: 鳥海 友見

成徳はハーフコートマンツーマン、竜ヶ崎二はオールコートマンツーマンでスタート。成徳は#4の3Pと#9のインサイドで先制するが、竜ヶ崎二はオールコートの激しいディフェンスからスティールを重ね#5・#9の速攻で残り6分には13対7とリードする。成徳は#9のインサイドや#8の速攻で残り3分には追い付く。長身選手を活かした攻撃を見せる成徳に対し、竜ヶ崎二は激しくメンバーを入れ替えて運動量豊富なディフェンスで勝負する。一進一退の攻防が続き第1Pは27対26で成徳が1点リードで終了する。

第2P成徳は#9のインサイド、#6のジャンプシュート、#15のドライブインで33対26とリードする。竜ヶ崎二も積極的にダブルチームに行きスティールからの速攻や#10のドライブインで応戦する。成徳が残り5分からディフェンスをオールコートのマンツーマンに変えると竜ヶ崎二はターンオーバーが重なる。44対32で成徳がリードして前半が終了する。

第3P両チームともオールコートマンツーマンでスタートする。成徳は#9のインサイドを中心に#8の3Pや#10の速攻で得点を重ねる。竜ヶ崎二はドライブインで仕掛けるが成徳の高さの前に得点が伸びない。76対50と成徳のリードがさらに広がり第3Pが終了する。

第4P成徳は控えメンバーにする。竜ヶ崎二も最後までチーム一丸となってオールコートマンツーマンでプレッシャーをかけてスティールを重ねるが点差を詰めることができず、97対62で成徳が1回戦を突破した。